

## 1 はじめに

令和2年度から小学校では、新学習指導要領に拠る教育が完全実施され、本年度で3年目を迎えます。新学習指導要領では、急速に変化する予測が困難な時代の中で、社会で生きていくために必要な力を育むことが求められています。このような時代にあっては、よりよい学校教育を通じて、よりよい社会を創るという目標を学校と社会とが共有し、連携及び協働により、社会に開かれた教育課程の理念の実現も求められています。長年育成を目指してきた「生きる力」をより具体化し、教育課程全体を通して育成を目指す資質・能力を明確に示してあります。

佐鳴台小学校では、平成20年度から平成30年度まで、「佐鳴の心が響き合う学校」令和元年度から令和3年度まで「多文化共生社会の担い手として よりよく生きる佐鳴の子」と学校教育目標のもと、一貫して佐鳴の心(勇気・友情・勤労)を大切にした教育活動を推進してきました。

### (1) 学習指導要領から

#### ① 育成を目指す資質・能力の三つの柱

「知識及び技能」・・・「何を理解しているか、何ができるか」

「思考力、判断力、表現力等」・・・「理解していること・できることをどう使うか」

「学びに向かう力、人間性等」で・・・「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」

#### ② 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進

○深い学びの鍵として「見方・考え方」を働かせることが重要

### (2) 浜松の目指す教育(第3次浜松市教育総合計画より)

はままつ人づくり未来プラン

#### 【はままつの人づくり】

○未来創造への人づくり

○市民協働による人づくり

#### 【目指す子供の姿】

○夢と希望を持ち続ける子ども

○これからの社会を生き抜くための資質や能力を育む子ども

○自分らしさを大切にする子供

#### 【3つの重点】

○コミュニティ・スクールの充実

学校と家庭・地域が、力を合わせて子供たちの豊かな成長を支えます。

○キャリア教育の推進

子供が「自分らしい生き方」を確立していくことを目指してキャリア教育を推進します。

○教育の情報化の充実

ICT機器の効果的な活用により子供の情報活用能力を育成します。

### (3) 佐鳴台小学校を取り巻く地域の特性

学区は、佐鳴湖の東岸から大地にかけての起伏にとんだ地域である。樹木が多く自然環境に恵まれ、四季折々の季節感豊かな地である。また、周辺には、蜷塚遺跡・入野古墳・伊場遺跡等名所旧跡が多く、歴史的にも恵まれている。

昭和 30 年代頃から原野と農耕地に開発の手が加えられ昭和 40 年代には、個人住宅やアパートが建てられ始めた。現在では、協働センターをはじめとして、郵便局・銀行等の機関や各種商店が立ち並び、生活環境は整えられている。また、公園が整備され、街路樹も美しく、住宅街としての景観を呈している。

#### (4) 佐鳴台小学校の教育課題

- ①家庭学習と連動した自ら学ぶ力と基礎的・基本的な学力の差を広げないこと
- ②規範意識の高揚とかかわる力(人間関係力)を育てること
- ③目標に向かい頑張る力、失敗しても粘り強くやり遂げる力をもつこと
- ④自己肯定感を高め、社会性を育てること
- ⑤教育活動の見える化
- ⑥9年間で、学びと育ちを支える小中一貫教育プログラムの構築
- ⑦多文化共生社会を支えるために、人権感覚を磨くこと
- ⑧コミュニティ・スクールとして学校・家庭・地域等をつなぐ有効な組織づくり
- ⑨急激に変化する時代、想定外の事態、デジタル化など、これからの社会を生き抜くために必要な資質・能力について、学校・家庭・地域が共に考え、協働する場の設定

## 2 校訓 「佐鳴の心 勇気 友情 勤労」

—勇気を出せ・友達思いであれ・働く汗を流せ—

## 3 学校教育目標 つながる力を育み、よりよく生きる佐鳴の子

新学習指導要領では、急速に変化する予測が困難な時代の中で、社会で生きていくために必要な力を育むことが必要であると言われている。今の子供たちが、夢と希望をもって自分らしく歩いていくことができるように、自分たちの将来が社会とのつながりの中で豊かになっていくだろうと感じ取らせることは、学校教育の大きな使命であると考えます。

本校では、昨年度まで「多文化共生社会の担い手として、よりよく生きる佐鳴の子」を学校教育目標に掲げ、誇りをもって未来を創る佐鳴の子を育成してきた。校訓「佐鳴の心 勇気・友情・勤労」は本校に脈々と息づく大切にしたい心である。本年度は、本校が今まで大切に育ててきたものを継承しながら「つながる力」に焦点を当て、学校教育目標を「つながる力を育み、よりよく生きる佐鳴の子」とし、佐鳴台小学校の歴史を継承、進化していきたい。

「つながる力」とは、一人一人が自分や友達、学び、社会、夢や希望とつながる力と考える。また、学級のグループや学級、学年、学校としてまとまる力も「つながる力」と捉える。自分のこと、相手のこと、社会のことなどつながるものやことは多種多様にわたっているが、肯定的に自分を理解することや社会の一員として生活するための知識や行動を身に付けることは人間関係を円滑にするための基盤として必要不可欠である。本校で捉える「つながる力」は、それぞれ独立す

るものではなく、それぞれの要素が絡み合い、複雑に作用しながら育っていくものであると考える。そこで、以下に教育目標を達成するための目指す子供像、学校像、職員像、経営方針などを述べていく。

#### 4 目指す子供像(重点目標)

- かけがえのない命(存在)とつながりを大切にしながら、自分らしくよりよい生き方を実現していく姿
- 多様性(ダイバーシティ)の尊重、相互理解から相違点や共通点を見付け、共通の目的に向かって社会(集団)の中で自分の役割と責任を果たし協働する姿

#### 5 目指す学校像

地域と共にある 佐鳴の心の響き合う学校〈自立と共生を目指して〉

#### 6 目指す教職員像 ー教育は人なりー

- 確かな児童理解に基づく、温かな言葉かけと寄り添い
- 専門性と指導力を磨き続ける教職員

#### 7 学校経営方針

- 学校にかかわる全ての人の命を大切にする。
- チーム佐鳴台として教職員の和と力を結集し、組織が有効に機能する組織的、協働的な学校運営を行う。
- 発達支援教育の理念を根幹に据え、一人一人の教育的ニーズを探り、適切な指導・支援を考えて寄り添う。(子供の多様性、個性の違いを価値あるものとして、互いを受容し合う温かな雰囲気)
- 学校・家庭・地域等がチームとして、協働して児童の育成に取り組む。
- 全職員でカリキュラム・マネジメントをし、教育活動を常に精査する。

#### 8 特色ある学校づくり

○ さなレンジャー	勇気・友情・勤労 3つの心の啓発 ※ 児童会のキャラクター ※ SDGs推進の基盤(心)
○ 響き合うさわやかな挨拶	孤立しない・させない(自助・共助) 社会につながる基礎力
○ 企業と進めるキャリア教育	モデルとなる多くの大人との出会い 仕事の準備として軸をつくる。 キャリアアンカーを育てる協働授業
○ ピア・サポート	人間関係づくり活動とスキルの習熟 多様な仲間との対話(やさしい日本語)
○ クラシック・アート	本物の文化・芸術との出会い (音楽・アート等に包まれた環境)

○ 学校学習支援サポーター さなレンジャーPEACE	保護者による学校学習支援サポーター
○ クラブ活動	多才な講師によるクラブ活動 地域でのボランティア活動への広がり
○ 地域学校協働活動(共育活動) 土曜講座 夏休みワークショップ 等	親子で学ぶキャリア教育 (ワークショップ型)等 SDGs課題 佐鳴湖 環境 等
○ 生花教室	昼休み 日本文化にふれる体験 貢献活動(校内展示)
○ レッツさんとの交流 「みにみにアルスノヴァがやってきた」	昼休み インクルーシブ体験
○ 放課後子供教室	外部の講師と取り組む音楽教室

## 9 経営の基盤

### ○ 信頼される学校・教職員

- ・ 確かな児童理解に基づく、温かな言葉かけと寄り添い。
- ・ 相談体制を整備し、子供、保護者の声に耳を傾ける。
- ・ 「佐鳴台小いじめ防止基本方針」を熟知し、いじめのない学校を目指す。

### ○ 家庭・地域との協働

- ・ 学び・行事・生活をつなぐ幼小中一貫教育を推進する。  
佐鳴台中学校区目指す子供像「互いのよさを認め、響き合うさなるの子」
- ・ 家庭・地域との連携や関係を深め、信頼関係や教育力の向上を図る。
- ・ 情報を公開し、家庭・地域と成果や課題を共有する。

## 10 令和4年度学校経営上の具体的課題

### (1) キャリア教育を意識した授業改善の推進

- 本校でつけたい基礎的・汎用的能力の育成
  - 人間関係形成・社会形成能力「人とつながる力」
  - 自己理解・自己管理能力「自分とつながる力」
  - 課題対応能力「学びとつながる力」
  - キャリアプランニング能力「夢や希望とつながる力」
- 主体的・対話的で深い学びを意識した授業改善

### (2) 情報教育の推進

- 主体的・対話的で深い学びを意識したICT活用

### (3) コミュニティ・スクールによる働き方改革の推進

### (4) 教科担任制の導入

【 キーワード① 社会に開かれた教育課程 】

- 社会や世界の状況を幅広く視野に入れ、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目を持ち、教育課程を介してその目標を社会と共有していくこと
- これからの社会を創り出していく子供たちが、社会や世界に向き合い関わり合い、自らの人生を切り拓いていくために求められる資質・能力とは何かを、教育課程において明確化し育ていくこと
- 教育課程の実施に当たって、地域の人的・物的資源を活用したり、放課後や土曜日等を活用した社会教育との連携を図ったりし、学校教育を学校内に閉じずに、その目指すところを社会と共有・連携しながら実現させること

【 キーワード② カリキュラム・マネジメント 】

- 教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた教科横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していくこと。

【 キーワード③ 「見方・考え方」「資質・能力の三つの柱」 】

- 「見方・考え方」は、各教科等を学ぶ本質的な意義の中核をなすものとして、各教科等の教育と社会をつなぐもの
- 「資質・能力の三つの柱」は、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」で、それに沿って、目標や内容が整理されている。観点別学習状況の評価は、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」

【 キーワード④ 主体的・対話的で深い学び 】

- 教師は、子供が、学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか問い続ける必要がある。
- 教師は、子供が、子供同士の協議、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛りに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか問い続ける必要がある。
- 教師は、子供が習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見出したりして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりするに向かう「深い学び」が実現できているか問い続ける必要がある。